

事務事業評価表 平成25年度

政策 明日につながる産業の振興  
 施策 都市型農業の推進  
 基本事業 施策の総合推進

事業名 **農地基本台帳整備事業**

[0950]

部名	農業委員会事務局	事業開始年度	平成23年度	実施計画事業認定	非対象
課名	主査(農業委員会担当)	事業終了年度	-年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
<p>対象</p> <p>(誰、何に対して事業を行うのか) 農地基本台帳</p>	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段) 農地基本台帳情報を専用の管理パッケージソフトウェアで管理し、地図情報システムとも共有、連動化を可能とすることで、情報の有効活用や効率的な運用を行う</p>
<p>意図</p> <p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 農地基本台帳の基本事項とそれに付随する情報、地図情報を統合することにより各耕地の一元的で効率的な情報収集が可能となり、各種の許可・届出にかかる申請相談業務や耕作地証明等の発行に際して迅速な対応や正確性の向上が図られる。また、各種項目に渡る台帳情報の更新・異動についてはきわめて専門性の高い作業であるが、これらの管理運営においてシステム導入でマニュアル化されることにより、継続的に均一な運用を行うことが可能となる。</p>	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	台帳数	冊		1	1	1
対象指標2						
活動指標1	管理耕地数及び賃貸借等各耕地の付帯情報数	件		51,151	56,405	50,617
活動指標2						
成果指標1	管理耕地数及び付帯情報数	件		51,151	56,405	50,617
成果指標2	管理耕地 1筆あたりの情報収集に要する所要時間	分		5	5	5
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	0	2,079	984	2,408
正職員人件費(B)		千円	0	803	1,603	1,611
<b>総事業費(A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>0</b>	<b>2,882</b>	<b>2,587</b>	<b>4,019</b>

費用内訳	
24年度	賃金 984千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	農地基本台帳は農業委員会交付金事業実施要領に基づき整備することとされているが、この要領が改正されたことにより、台帳の管理項目の変更があり、これらを含めて早期に台帳を整備し、効率的な運用を図るよう求められている。	事業を取り巻く環境変化	農地基本台帳は管理項目の性質上、複数種のデータを管理する必要があり、こうした運用面の必要性から導入を行った。一元管理が実現され、業務の正確性・迅速性が一層推進されており、今後も有意義な活用が求められる。
--------	---	-------------	---

## 24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業  
 妥当である  
 妥当性が低い

理由・  
 根拠は？

農地基本台帳整備事業は農業委員会交付金事業実施要領 第30の1の(3)イ(農業委員会が法令事務を処理するにあたり必要な資料としての農地基本台帳を整備すること。)に基づく事業である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい  
 貢献度ふつう  
 貢献度小さい  
 基礎的事務事業

理由・  
 根拠は？

農地基本台帳の整備について、農林水産省は、これまでの区域内の農家単位で農機具、施設、経営農地、貸付地の保有状況等を管理するいわゆる属人台帳から、区域内の全ての農地の利用状況等を管理するいわゆる属地台帳に変更するよう求められており、求めに則した内容の台帳整備を行えている。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている  
 どちらかといえばあがっている  
 あがらない

理由・  
 根拠は？

従前、使用してきた台帳に比べ、管理が容易であり、概ね計画どおりの成果が出ている。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大  
 成果向上余地 中  
 成果向上余地 小・なし

理由・  
 根拠は？

台帳様式・使用用途とも固定されており、目的に沿った事業を行っているため、成果向上の余地はない。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

ある  
 ない

理由・  
 根拠は？

現状では新たな方法は考えられない。